

企 画 名:まつもと子ども留学継続・拡充事業

団 体 名:まつもと子ども留学基金

1. 報告要旨

当団体は平成 26 年 4 月から、福島県の子ども達を対象に、自然豊かな松本市・四賀地区で、寮生活と教育を受けさせる留学事業を行なっている。また、次年度の 4 月からは、松本市内の個人宅で男子 2 名がホームステイ留学を受け入れていただき、そのご家族と共に NPO のスタッフが支援を行ってきている。ホームステイ留学生も子ども寮の寮生と一緒に様々な行事を体験し、交流も深まってきている。松本市や教育委員会をはじめ、地域の方々の支援、長野県内、日本全国の市民からもの多くの寄付や物品の寄付によって、3 年目の事業を無事継続させることができた。海外からも支援が寄せられている。アクト・ビヨンド・トラストなどの助成団体からの助成では、母屋の部屋拡張、離れのトイレやシャワー、駐車場の整備などにより寮の施設と宿泊施設の環境を整備することができ、「暮らしやすい寮」と「保養などに開かれた寮」と寮の機能が大幅に拡大した。

施設が整備されたことにより、今年度は参加者が「日程や過ごし方も自由」という形式の「通年保養」も導入することができた。保護者のニーズにも合い、好評であった。保養相談会、自主企画相談会やパンフレットの成果もあり、年間参加者は昨年の 3 倍を超え、合計家族 20 家族 68 人であった。スタッフの一人がコーディネーターとなり、日程調整や遊び場所の紹介や同行支援などを行った。人数が多い時期には、バーベキューなどに寮生も参加し、楽しく交流をした。その中から、2 家族親子 4 名が、平成 29 年 4 月から、寮近くの公営住宅に移住し、寮生やスタッフと交流しながら生活することになった。相談会での相談、保養&見学会の体験を経て、住宅支援の打切りに伴い、NPO と松本市への信頼を頼りに自主避難先から移住を決意したのである。

寮生たちの生活では、2 名の受験生が進学先を福島か長野かで悩み、様々な課題に直面したが、最終的に両名とも長野県内の高校に、志望通り進学することができた。丸 3 年間、松本で学んだ寮生が長野に残って進学することは、NPO の関係者ばかりでなく、毎年、卒業の餅つきをしてくれる四賀地区人たちにとっても、喜ばれることだと思う。その為、NPO は H29 年度から高校生の寮生活を支援をすることを決めた。

平成 28 年 1 月より当 NPO の寮スタッフとして大活躍している方が、NHK ラジオの取材を受け、留学事業への思いを全国に発信してくれた。

2. 成果物

1. 「特集 福島から松本へ あすを紡ぐ子ども留学」(上中下)『信濃毎日新聞』(2016/04/13~04/15)
2. 「子ども留学 海外から善意」『市民タイムス』(2017/03/23)
3. H28 年度 8 月 保養&見学会チラシとしおり [※保養と見学会の様子はホームページで](#)
4. H28 年度 9 月 保養&見学会チラシとしおり
5. NHK ラジオで「子ども留学の紹介」。スタッフの間宮さんがインタビューに応える。
6. [ニュースレターvol. 7 発行](#)